

キャラクター名  
ノオラ・パレオロギナ

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ブラックドッグ		ワークス	FHエージェントA	カヴァー	
	オプショナル		年齢	不明	性別	♀
覚醒	渴望	衝動		加虐	初期侵食率	40%
出自	権力者の血統	経験		喪失	邂逅	理想の実現

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	38
肉体	3	1	0		4	8	行動値	6
感覚	2		0			2	(非装備時)	6
精神	2		0			2	戦闘移動	21
社会	1		0			1	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正									
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:	FH	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
マグネットアーム	白兵	8r	3	8		素手変更。攻撃力+【肉体】。
光届かぬ水の槽(ロボットアーム)	白兵	8r+1		26		コスト5(9)、[能力訓練]使用。(80↑でガード不可、装甲無視)。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
能力訓練：【肉体】	
情報屋	
専門家：機械工学	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
実験体	P	N		
脚	P 幸福感	N 恐怖		
FHセル《Honesty》	P 好意	N 不安		
ブレイブボーイ	P 慈愛	N 嫌悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8    残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
サイバーレッグ	5	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動で離脱可。基本侵蝕+3。							
アンバウンド	3	2	マイナー	至近	-	対決	リミット	
効果:	前提：「サイバーレッグ」。戦闘移動でき、メイン間の白兵攻撃の攻撃力+[LV×3]。							
マグネットアーム	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン間、素手変更							
大裁断	3	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	素手による攻撃力+[LV×3]。							
コンセントレイト：ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-LV(下限値7)。							
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	-	対決	80↑	
効果:	装甲無視・ガード不可。シナリオLV回。							
軽功	★							
効果:								
海の魔術師	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

常に丈長の衣装に身を包んだ女性。  
 その下に隠れた下半身は全て機械となっており、左目も義眼で左右で目の色が異なる。  
 基本的に人当たりは優しいが、戦闘時は加虐的になることも。

彼女はかつて踊りで大舞台に立つことを夢見たが、事故によって片目と下半身を失い、望みを絶たれた。  
 やがてたどり着いたのは人道顧みぬ暗闇の底。  
 取り戻した下半身には8本の義足があり、義眼を通じて脳とより近しくリンクしている。  
 これにより、戦闘能力と引き換えに彼女の人格は侵された。  
 そうして望み(脚)を繋いだ彼女は、もはや彼女ではないのかも知れない。

脚から繰り出される蹴りは全て斬撃に変わる。  
 かまいたちなどを起こすハヌマーンのシンドロームに分類されているが、これが起こる原理は明確でない。  
 確かなのは「蹴りが斬撃に変わる」力を持っているということ。  
 八本の義足から放たれる斬撃は文字通り敵に息つく間も与えず、水の中にいるかのように酸欠に陥れるほどのもの。  
 故に異名は「水の檻(スキュラ)」。

ある身体改造の研究が行われていた。  
 能力者の肉体に新たに部位を付け加えることで、強化を図るというものである。  
 その研究の総決算として、一時期開発を目指されたのが「X」。  
 10番目を飾る「X」にふさわしい物を作るべく、試作機が数多く開発された。  
 Xシリーズが完成したのかは定かではない。  
 しかしこうして作られた試作機は様々な理由はあるけど、横流しされて出回る形となった。